

令和6年度 吹田市立北山田小学校 経営方針

校長 福井 将人

① **Mission**:北山田小学校の存在意義・使命

北山田小学校に通う全ての子どもが、多様な他者と協働しながら、自立して社会で生き、豊かな人生を送ることができるよう、

- ・その基礎となる力を培い、子どもたちの豊かな学びと成長を保障する場としての役割
- ・地域コミュニティの拠点として、地域の将来の担い手となる人材を育成する役割
- ・持続可能な社会の担い手を育成する役割

以上の使命・存在意義があることから、以下の学校教育目標を設定している。



学校教育目標

「自立 協働」

② **Vision**:Mission を具現化するために目指す姿

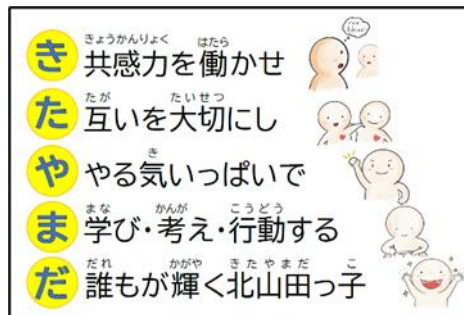
学校教育目標「自立 協働」を具現化するための「学校」、「子ども」、「教職員」それぞれのめざす姿



めざす学校像

一人ひとりが可能性を発揮し、笑顔あふれる学校

めざす子ども像



めざす教職員像

- ・子どもを信頼(善なる存在として・能動的学習者として)する教職員
- ・常に問い続け、学び続ける教職員
- ・目的達成に向け、チーム北山田として協働する教職員

③Value: Mission、Vision を実現するための行動指針

全ての教育活動の軸となる考え方

「子どもを信頼する」

・善なる存在として信頼する

・能動的学習者として信頼する

「人間として善なるものへの信頼」

人間として善なるものへの信頼というのは、たとえ実際の行動に問題があっても、その子どもの心の中に善なるもの(向上心、良心が含まれる)の存在を認めようとすることであると言ってもよい。

したがって、なにか問題となるようなことを起こしても、それは本心からではなく、きっとそうせざるを得ない事情があったのだらうと思ったり、今は何かの理由から、あるいはちょっとした不注意から悪いことをしたとしても、本当は良い子なんだと思うことである。私たちは、たとえ他人からお人よしと言われてもなお、子供に対してこのように思うことができるであろうか。……(中略)……

人間として善なるものへの信頼によって、その子ども自身が、やがて自分の持つ善きものに目覚め、その自らの善きものによって立ち直ったり、よりよく生き抜くことができるようになる。

「能動的学習者としての信頼」

教師は、とかく、子どもが自分で判断し、行動する前に「あれをしなさい」「これをしてはいけません」とあれこれ指示する傾向が強い。……(中略)……

そもそも教師や親がそのようにするのは、彼らの心の中に子供たちに無用な失敗はさせたくない、良いものを作らせた、成功経験をさせたい等の願いももちろんあろうが、多分に、「子どもは言わなければやらない」とか「教えなければ学ばない」という思いがあると考えられる。

一方、子どもが主体となった教育を展開し続け、生き生きとした学校生活が営まれている学校がある。私は、そうした学校を何度か訪問しながら、確信するに至ったのであるが、それらの学校はどれも、方法上の改善以前に、表現の仕方こそ違え、子どもについての見方、すなわち子ども観(学習者観)が従来からの一般的なそれと根本的に異なっているのである。

それらの学校は、一言で言えば、子どもを受動的な存在として見、扱うのではなく、能動的な学習者として認めているのである。

「はじめに子どもありき」平野 朝久 著 (東洋館出版社) より引用

◎行動指針 重点8項目

- ① 人権の尊重(子どもを善なる存在として信頼)
- ② 主体のある協働(チーム学校)
- ③ 学習者中心の授業(能力ベースの授業づくり)への転換
- ④ 特別支援教育の充実(インクルーシブな学校づくり・社会モデル考え方の浸透)
- ⑤ 保護者・地域との連携(学校・保護者・地域で学校教育目標達成を目指す)
- ⑥ いじめや問題行動・不登校・学級での困りごとはチーム対応
- ⑦ 常に問い続け、学び続ける教職員(不易を軸に流行をつかむ)
- ⑧ Mission、Vision を軸とした働き方改革(教職員のウェルビーイングの実現)